

愛鷹小中一貫教育目標 『志を持ち たくましく生きる人』(15歳の姿)  
 愛鷹中学校 教育目標 『夢に向かい 心豊かに 自ら学ぶ』



沼津市立愛鷹中学校

学校だより No. 7

平成30年12月21日

## 盛り上がる 生徒会活動

12月11日 生徒会、専門委員会が企画したスペシャル生徒集会は、クイズ、ゲームで歓声が上がリ、本部と委員会からのお知らせをしっかりと聞き、けじめのある楽しい会になりました。

	レクリエーション等	お知らせ
生活委員会	世界の挨拶クイズ 防寒着の約束について	あいさつはコミュニケーションの始まり。 自分から挨拶できる人になろう。
図書委員会	本の題名伝言ゲーム	新刊本紹介：5分後に恋の結末、ちはやふる 中学生のための職業図鑑
健康委員会	インフルエンザや菌の〇×ゲーム	加湿器は健康委員が管理しますから、他の人は触らないでください。
環境委員会	黙動清掃の報告。重点清掃の連絡。 ペットボトルキャップクイズ キャップ 500個でワクチン1本	ペットボトルキャップ集め協力願います。 「1/14～1/25」生徒玄関前で回収。
放送委員会	イントロクイズ	昼の放送用CD募集しています。
給食委員会	リクエスト給食の結果発表。 クリスマスクイズ：ケーキについて	残飯は古紙に包んでください。 各階の配膳室への食器返却が間に合わなかった時は、1階配膳台へ返却してください。
生徒会本部		広報活動として愛中LINEを企画します。 生徒の意見を反映させたいので、意見箱を利用してください。 あいさつを積極的なものにしましょう。

## 地域で育つ 愛鷹中生

「それは学校では学べないことだね。」という言葉聞くことがよくあります。ここでいう学校とは教科の学習、学校行事などを思い浮かべてのことで、人間教育には、古くから家庭、地域社会の営みの中で育まれてきた多くのことが必要であることを意味しています。そこで、中学校では総合的な学習の時間に事業所や地域の方に協力をいただき、社会的・職業的自立に向けた体験学習を行いました。事後学習として、1・2年生は体験のまとめを授業参観日に発表し、3年生は家庭科「保育」で保健師を講師に招いて育児に関する学習を行いました。生徒はは興味・関心のある体験活動から、自分にある可能性と将来ありたい自分を見つめる有意義な機会になりました。

また、12月の地域防災訓練では85%の生徒参加があり、貴重な体験をさせていただきました。消火器、シーツを用いた初期消火、マンホールのふた外しから始まる放水訓練、三角巾を用いた救急法、避難経路の確認と各自治会で工夫を凝らした訓練は生徒に鮮明な記憶となっています。



1年 救急救命講習  
 (駿東伊豆消防本部 救急ワークステーション)



1年 先輩から技を学ぶ会・10講座(愛老連)





2年 職場体験（愛鷹地区を中心に57事業所）



3年 保育体験（愛鷹幼稚園）

保護者、コミュニティ関係者の皆様には、学校教育に関するアンケートに協力いただきましてありがとうございました。アンケート結果と登下校や挨拶の様子、学校行事、今年から始めた小中一貫教育、夏休み中の家庭訪問、三者面談等に関するご意見や要望を今年の教育活動を振り返る際の参考にさせていただき、3学期や来年度の学校経営を充実していきたいと思っております。今年から始まった愛鷹小中一貫教育を機会に、これまでに増して、子どもの成長を家庭、地域と連携して導くことを推進して参りますので、今後もよろしくお願いいたします。

### 終業式から

今年には日本各地で地震や台風などの自然の猛威にさらされる災害が起きました。その被災地にボランティアに駆けつけた方々も注目されたことから、今年の漢字は災害の「災」という漢字が選ばれました。この「災」の字が2位の年があります。それは死者・行方不明者は1万8,432人、建築物の全壊・半壊は合わせて40万2,704戸という未曾有の災害にみまわれた東日本大震災が発生した2011年です。この年の漢字は被災地の復興に向けて、人を助けたい、人の役に立ちたいという思いが人々の心を大きく占め、行動となったことを象徴した「絆」であり、その後の災害ボランティアの広がりにつながっています。

それまで、「絆」は家族や親友など離れがたい人と人とのつながりを表すときに使われていましたが、大震災と復興を通して、私たちは地域、国、世界を問わず、どの人も大切に思う心でつながりを感じ、「絆」という言葉を使うようになったと思います。今年活躍したアスリート達もそのインタビューで多くの方との絆のありがたさを感謝の言葉で伝えています。

先日のスペシャル生徒集会では、生徒会本部、専門委員会の皆さんがしっかりと企画と準備があったことが成功に繋がりました。そして、皆さんが専門委員会からのクイズやゲームを楽しみ、委員会連絡をしっかりと聞く、けじめのある様子には、その場に仲間という心地よさと安心感が漂っていました。私はその光景を見て愛鷹中学生徒会の互いを思いやる絆を強く感じました。

この絆は学級での日々の生活と学習、鷹根祭を始めとする学年・学校行事、部活動を通して、うまくいったこといかないうことがありながら、その時々周りの人との関わりや自分の行動をどうしていくか判断し、行動したことで育まれたもので、皆さんの成長の表れでもあります。

この「どのように周囲の人と関わり、どう生きていくか」そのことを示唆してくれる本が今年のベストセラーになった漫画「君たちはどう生きるか」とその原作本です。この2冊は図書室入り口右側の書棚に並んでいます。ちなみに、こちらの原作本は10年前から愛鷹中の図書館にあるものです。

「君たちはどう生きるか」の登場人物はコペル君と呼ばれる中学2年生の潤一君とその叔父さんです。コペル君は皆さんと同様に、日々の生活や友人との出来事を通して喜んだり悩み葛藤したりして、生きる上で大切なことを見つけていきます。そんなコペル君はある出来事で親友を裏切り、その後悔から悩み学校へ行けなくなります。そして、そのことを知った叔父さんがそれまでにコペル君に伝えたいことを綴ってきた「おじさんノート」を通して、コペル君の心を後押しするお話です。

おじさんノートに書かれていることは、読者の私たちにもどう生きていくか回答してくれていて、皆さんが今年さまざまなことを意思決定して、行動したことが自信になる内容が書かれていますし、「夢に向かい 心豊かに 自ら学ぶ」こと、「志を持ち たくましく生きる」こととはどんなことかが書き表されていますので、お勧めします。

年末年始は、一年を振り返り、十代前半の自分を見つめ直し、将来の生き方を思い描くときです。どう生きるかやる気に満ちた新年の抱負をもって、新年を迎えることを期待します。